NEWSLETTER

NO.1　　岐阜大学国際交流室　1986年7月16日発行

国際交流室とNewsletter

岐阜大学長　早　野　三　郎

国際交流委員会が岐阜大学に発足したのは昭和56年5月である。それは，岐阜大学の統合移転が実質的に進行されつつあり，また海外からの留学生，研究者が次第に増えつつあった時期でもある。

我が国が21世紀初頭に，留学生受入れを10万人にしようとする計画を打ち出したのは昭和58年頃からで，この数が妥当なのか，達成できるのか危惧を抱く向きも少なくないが，経済大国と目された現在，国際的に責任を果すために，大学は最大限の努力をせねばならない。

岐阜大学はこのところ毎年約50人の留学生，研究者を受け入れている。更に，交流を締結した海外の大学は5大学，提携を協議している大学が数大学あり，今後留学生，研究者は急速に増加するものと考えている。

一昨年，大学本部一階に国際交流室を開設したのは，これから本学に学ぶ留学生，研究者に日本語，日本文化を習得してもらい，かつ生活をはじめ様々な相談にものれる体制を整えるためであった。そのため，室員の方々には無から有を生ずるような無理な知恵を出していただき，人の面ではボランティアを，金の面では奨学寄附金でという行為による運営を行っている。幸い，学内外のご理解によって実績が上がりつつあるのはありがたいことである。

しかし，国際交流室は誕生したばかりで，何が為されているか未だ良く知られていない。そこで，国際交流室を認識し理解して頂くと共に，助言を賜ってより良い発展を遂げるよう期待している。このたび，定期的にNewsletterを発行し，ＰＲもいたしますので，どうかご支援下さい。また，ご意見をお寄せ下さい。

ニューズ・レター発行に当たって

国際交流室長　藤　掛　庄　市

国際交流室が開設されて，ほぼ二年になる。その間，絶えず，交流室の役割や実情を広く学内に知っていただくために，ニューズ・レターを刊行することを考え続けて来たが，何しろ専任のフルタイムの職員もなく，室員の教官もそれぞれの仕事に忙しく，加えて，処理すべき仕事は，増え続ける一方になり，その対処に追われて，正直なところ，ニューズ・レターどころでなかった。その一方で，交流室の存在を知らない人や，その活動に対する理解不足からの不都合も生じて来始めた。

これでは，やはり，ニューズ・レターを発行しなければならない，と切に感じ始めていたところ，交流室の日本語インストラクターとして，当初より，ヴォランティア活動をして頂いている田尻由紀子さんから，これまたヴォランティア的に，ニューズ・レターの編集の担当を申し出て頂いた。（私が押しつけた，という説もあるが。）そこで，これ幸いと，お願いしたわけである。

何事もやってみなければ分らない，という主義の私のすることだから，どういうものになって行くか，分らないが，このニューズ・レターが国際交流室に対する学内の認識を高め，よって，本学の国際交流を活発にする一助になれば，と願うものである。

なお，この機会に，これまでの交流室の活動について，大方の御理解のために，紹介しておかなければならないことがある。

交流室が，まがりなりにも，いままで，その機能を果たせたのは，まずは，時給500円そこそこ，交通費も出ない，33時間勤務の非常勤職員の身分で，献身的に超時間も辞せず，御尽力頂いた初代交流室事務担当の河地和子さんのお蔭であり，更には，二代目の野村千香子さんのお蔭でもある。この四月からは，三代目の松井浩子さんになったが，勤務状況に変わりはない。（ちなみに，松井さんは，元工学部長の松井辰弥先生のお嬢さんである）。また何よりも，留学生に対する日本語教育に無報酬でヴォランティアとしてたずさわって頂いた。特に当初からのインストラクターの方々がいらっしゃらなかったら，交流室の日本語教育は不可能であったろう。インストラクターの方々は，交流室で日本語を教えるだけでなく，時に自宅に招いたり，買物に付き合ったり，いろいろ生活の相談に乗ったりして，留学生の母とも姉ともなって，親身に留学生の面倒を見て下さった。交流室担当事務部局の本部庶務課の方々の御尽力も，交流室がここまで育って来た要因として忘れてはならない。学生部の方々も，学生部の一部局のごとくに，陰に陽に交流室を強力にバックアップして下さった。教官の中にも，交流室の存在意義を認識し，種々の御協力や便宜をたまわった方も多い。昨年四月同好会として発足した国際交流クラブの学生諸君も国際運動会を始め，交流室の各種行事に献身的に貢献した。最後に身内になるが，私の研究室で卒業研究を行った学生達も，日本語教育のカリキュラムや教材開発を担当，また留学生のチューターとして，大いに私を助けてくれた。

これらの人達の御協力や活躍がなかったら，交流室の存在は危うかったろうし，交流室がなかったら，岐阜大学の国際交流も，現状とは違ったものになっていたであろう。これらの交流室を支えてきた方々の存在を，いままで学内に知らせる機会がなかったので，今回ニューズ・レター刊行を機に，先ず第一のトピックとして，ここに紹介させて頂く次第である。

国際交流室の案内

国際交流室は岐阜大学本部の正面，向かって左の小さな三つの部屋からなっています。あまり小さくて，その存在すら知らないという教官や学生もあるという話ですが，ここは実は岐阜大学の国際交流の中枢であると共に，岐阜大学に学ぶ留学生の目となり耳となり，手となり足となっている重要な場所なのです。このNewsletterの発行に当たり交流室の紹介をしたいと思います。

1. 国際交流室設立の趣旨

年を追う毎に海外の大学との交流や提携が盛んになり，学外の国際交流団体との交流が盛んになって来るに従って，その取りまとめを行うセクションが必要となって来ました。そこで岐阜大学における交流の実務を担当する国際交流室が誕生するに至りました。

2. 事業計画

上記の趣旨に沿って，次の様な活動を計画し，実行しつつあります。

① 外国人研究者・留学生に対する日本語教育，日本文化・日本事情教育

② 学内の教職員・学生に対する外国語教育や海外の文化・事情の情報提供

③ 岐阜県及び近県を訪れる諸国の文化人・学者・芸術家などによる講演会，展覧会，演奏会などの開催

④ 教職員・学生に対する海外派遣・渡航・勉学・研修に関するノウ・ハウの提供と実務のサーヴィス

この様な活動を支えるための大部分は，学外の団体や篤志家の御好意に頼っています。従って，学外の人々や在留外国人に対しても，同様なサーヴィスを拡げていく予定です。

3. 組　織

現在，活動にたずさわっているのは，国際交流委員会によって指名された国際交流室員を始め，以下のメンバーです。

◆今年度の国際交流室員

室　長	藤掛庄市（教育学部）
日本語，日本文化教育担当主任	松川禮子（教育学部）
国際理解教育担当主任	堀内孝次（農学部）
国際交流事業担当主任	藤井　洋（工学部）
学内交流企画担当主任	小澤克彦（教育学部）
室　員	高橋　弘（教育学部）
	野澤義則（医学部）
	山田　弘（医学部）
	箕浦秀樹（工学部）
	武脇　義（農学部）

室　員　　中村征夫（農学部）
　　末永　豊（教養部）
　　吉崎範夫（教養部）
　　若松謙一（短期大学部）
　　平松宏一（短期大学部）

◆インストラクター（日本語指導）

市岡佳子	江口史美	大野美代子
大橋八恵子	大前昌子	及川由利
河地和子	北川光世	河野修子
後藤規子	杉山加津子	田中亨子
田中伸美	平井千栄子	古田育子
毛利千恵子	脇田維久子	

◆非常勤講師（日本語及び日本文化指導）

河合雅子　河地　忍　田尻由紀子

◆国際交流クラブ（学生同好会）

（クラブ員　約20人）

◆事務局員

松井浩子　河地和子

4. 活動の紹介

上記の活動計画のうち，昨年度から現在まで実施された，あるいは現在行われつつあることのいくつかを紹介したいと思います。

◆日本語教育

ここでは，留学生に対する日本語教育がいつも行われています。初級，中級，上級とほぼ三つのコースに分れ，初級コースは十月に新しい留学生を迎え入れると同時に開講されます。テキスト，授業，指導方法等は第二言語教育の専門家である藤掛室長の開発したSFモジュラー・システムに従って構成され，ほとんど日本語のできない学生に，月曜から金曜の午前中に二クラス（三時間）ずつ毎日集中授業が，午後はワープロを使っての指導，日本文化や，カラオケの授業が行われます。また，それぞれの留学生にはチューターとして日本人学生がついており，フリートーキングをしたり，日本での生活を側面から必要に応じて手助けしたりできるシステムになっています。授業内容も三カ月の基礎コース後は様々な教材を使っての，初級応用編に移ります。初級コース（約五カ月）を終了したか，あるいはその程度の力を持った学生は中級ということで，各々の力あるいは専門に合ったテキストを選び，インストラクターの個人指導を受けることになります。ここでは日本人との日常会話ができるようになること，及び基本的な読み書きができるようになることを目標としています。

さらに高度な会話と読み書きを目指す人は，上級クラスを選ぶことになります。上級クラスは集中授業形式で，週二回あり，バラエティーに富んだ教材で，より完成度の高い日本語が修得できるよう授業が構成されています。また個人で更に勉強したい人はインストラクターにつくこともできます。表1は6月現在の日本語教育（日本文化を含む）の時間割表です。

表1. 留学生に対する日本語・日本文化の授業時間割（6月現在）

		月	火	水	木	金
9：00 10：30	1	及 川—マイケル 田 尻—マリルー チ ー	河地—中級者 田中—カフィ	河合による日本文化の授業 田尻— カフィ	河 地—上級者 大 野—シャー	脇 田—江 本 平 井—シャー
10：40 12：10	2	後 藤—金 田 尻—マーク 河 地—シャー	河合による日本文化の授業 大橋 地坂 毛利 佐藤	田 尻—中級者 後 藤—王	北 川—ニ ー 古 田—江 本 河 野—レオン	後 藤—金 大 前 市 岡—バリー
12：30 13：20				田 中—張	古 田—謝	
14：50	3	田 尻—上級者 後 藤—曹 及 川—ムバラク 脇 田—ニ ー 江 口—マリルー		田 尻—マーク	河 地—バリー	松川による漢字の授業
15：10 16：40	4		カラオケ クラス	日本語でのフリートーキング		

中上級の学生は各自の専門の授業が多くなるため，初級の学生のように，毎日日本語の授業があるわけではありませんが，それぞれの時間割や希望に応じて日本語の指導が受けられるようになっています。また，日本文化とカラオケの授業にも参加できますので，この時間を通して留学生同志が交流を図ることもできているようです。

交流室は，日本語教育が日本語の修得にとどまるのではなく日本語の授業を通して，また修得した日本語を通して，日本人や日本の文化を留学生が理解し，多くの人々とのコミニュケーションができることを，そして私達日本人も彼らから多くを学び相互理解ができるようになることを目標としています。

◆主な行事

• 今までに行われたもの

昨年度

5月　• コスモス，インターナショナルによる日本語スピーチコンテストの後援

6月　• タイセミナー　（講師　サンタポン・パジョンジンさん）

　　• 中国セミナー　（講師　王さん）

10月　• 国際運動会

　　附属小学校グラウンドで留学生を交えスポーツを通しての交流を図った

11月　• インターナショナルレストラン

　　（大学祭参加行事として留学生が各国料理を作ってバザーをする）

　　• 日伯協会に協力してブラジルの留学生との友好を図る

　　• 東南アジア青年の船のメンバーの迎え入れ

2月　• アラスカセミナー　（講師　ベッキーさん）

3月　• 帰国及び卒業する留学生送別会

今年度

4月（16日）・第1回留学生対象特別公開講演会
早野学長（老人の眼の手術について）
（26日）・新しい留学生の歓迎パーティー
5月（14日）・第2回留学生対象特別公開講演会
田名部教授（犬から探る日本人の起源）
（21日）・世界の若者の国際親善使節
Up With People の受入れ　（校内を国際交流クラブ員が案内・岐阜のバンドどのミニ・ジョイント・コンサート）
6月（8日）・留学生とハイキング，バーベキュー
（18日）・アラスカ大学からの来訪者受入れ

・当面の活動計画
○堀内先生による国際理解と協力のためのセミナー
（各国からの留学生及び研究者を交えて，月一度の予定）
○各分野の教官による留学生に対する特別公開講演会
○ガーナ，ペルー，チュニジア，ブラジル，フィリピン，インド等のセミナー
○国際運動会

今後も，学内のスタッフや国際交流クラブ，また学外の各種交流団体（ＰＴＰ，青年会議所，コスモス・インターナショナル，日伯協会等）と協力して様々な交流活動を展開していく予定です。

◆その他のスタッフと学生に対するサーヴィス活動

学内の英文研究者要覧及び岐阜大学の英文要覧を完成しました。

また，教職員に対しては，アメリカ人のマークさんによる英会話の授業があり，海外出張等の為の資料も順次整える計画をしています。学生に対しての留学相談も近日中に開始するつもりです。

なお，昨年に引き続き留学生によるポルトガル語，英語，韓国語，中国語の授業を受けたい人があれば，希望する人はだれでも無料で勉強できるクラスを作ることを予定しています。

以上の様な活動以外に，交流室はいつも動いています。例えば，現在でも留学生の祖国も様々で韓国，中国，タイ，ビルマ，マレーシア等のアジアの国をはじめ，アメリカ，ブラジル，ペルー，ガーナ，チュニジア，インド等実に多くの国を数えあげることができます。そして，留学生の持つ問題を，いろいろと引き受けているのも国際交流室です。例えば医療，アパートの手続の仕方，各種料金の支払い方，来日してすぐ起こって来るあらゆる日常生活の問題を処理したり，アドバイスしたりします。また留学生に対して催し物の情報を流したり，旅行やホームステイをしたい人の相談に乗ったりしています。この様なことを通して着実な国際理解の糸口が見い出せたら，と思います。

また，先にも述べましたように，国際交流室は，誰にでも開かれた存在を目指しつつ，留学生の為ばかりでなく，学内外のあらゆる人々にとっての国際交流の窓口でありたいと考え，今後も活動を続けていくつもりでいます。皆様の御理解と御協力をお願い致します。

（資料1）

学術交流協定大学

（協定大学）　　1986年6月13日現在

大学名	承認日（委）	承認日（評）	署名日（岐）	署名日（協）	発効日	協定期間	事務担当者
カンピーナス大学	1983. 3. 10	1984. 1. 19	1984. 8. 27	1984. 8. 27	1984. 8. 27	2年	教…藤掛
アラスカ大学フェアバンクス校	1984. 1. 26	1984. 4. 19	1984. 12. 11	1984. 12. 11	1984. 12. 11	3年	工…仁田
サンディエゴ・ステート大学	1984. 10. 3	1985. 4. 25	1985. 4. 25	1985. 5. 7	1985. 9. 1	3年	教…藤掛
浙江大学	1985. 11. 12	1986. 2. 20	1986. 3. 1	1986. 4. 21	1986. 4. 21	無し	工…志水
広西農学院	1985. 12. 24	1986. 3. 20	1986. 4. 1	1986. 4. 24	1986. 4. 24	無し	農…竹内

（未協定大学）

大学名	承認日（委）	承認日（評）	事務担当者
成都電訊工程学院	1985. 12. 24	1986. 6. 12	工…稲垣
無錫軽工業学院	1986. 2. 18		農…堀津
コロラド州立大学	1986. 2. 18		農…古田

（資料２）

留　学　生　数

昭和60年度・61年度４月現在

国名	年度	教育学部 国費	教育学部 外国政府	教育学部 私費	医学部 国費	医学部 外国政府	医学部 私費	工学部 国費	工学部 外国政府	工学部 私費	農学部 国費	農学部 外国政府	農学部 私費	計 国費	計 外国政府	計 私費	合計
韓国	60	2											1	2		1	3
	61	1					1			1			1	1		3	4
中国	60	1			3	1	2	1	7			1	3	5	9	5	19
	61	1			2	1	1	2	2			1		5	4	1	10
台湾	60						4			2			1			7	7
	61						3			1			2			6	6
香港	60				1									1			1
	61																
タイ	60	4			1								1	5		1	6
	61	2			1									3			3
ビルマ	60	2												2			2
	61	1								1				1		1	2
マレーシア	60				1					5				1		5	6
	61				1			1		5				2		5	7
フィリピン	60	1			2									3			3
	61	1			1									2			2
インド	60							1						1			1
	61							1						1			1
アメリカ	60			＊2			1			＊1						4	4
	61			＊1			1			＊1						3	3
ブラジル	60												1			1	1
	61			1	1								1	1		2	3
ガーナ	60							1			1			2			2
	61							1			1			2			2
メキシコ	60	1												1			1
	61																
チュニジア	60																
	61							1						1			1
計	60	11		2	8	1	7	3	7	8	1	1	7	23	9	24	56
	61	6		2	6	1	6	6	2	9	1	1	4	19	4	21	44

＊印は，大学間交流協定に基づき受け入れた者を示す。